



[特集2] [特集1]

決 発

三〇一〇 瀬戸内海の魅力を世界に

福武哲彦教育賞に山本力氏、岡山県立久世高等学校
谷口滄夫教育奨励賞に床勝信氏ら一個人四団体

定 信

★美咲中央小学校における「1Fプラン」★北川フラム講演会・
海の復権「希望の海をめざして」★平成二十二年度 教育研究助
成・文化活動助成対象者決定★平成二十二年度事業計画

世界に発信 瀬戸内海の魅力を 二〇一〇

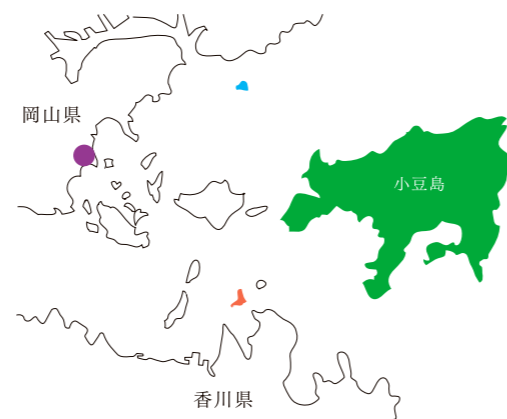
part2

瀬戸内海の7つの島と高松港周辺を舞台に7月19日から始まる「アートと海を巡る百日間の冒険」の開幕まで3ヶ月とせまってきました。前37号では、直島・豊島・男木島・女木島の4つの島を紹介しました。今回は残りの3つの島をご紹介します。(財団・中野)

● 芸術祭の玄関口「宇野港」



岡山駅からJR宇野線で約50分、昭和5年に岡山県初の貿易港として開港、瀬戸内海のほぼ中央部に位置します。港の背後は緑多い山に、港前面は瀬戸内海独特の美しい島々に囲まれ、波穏やかな天然の良港です。フェリーでは、直島まで20分、豊島まで40分です。開港80周年を記念して、玉野市や関係団体が協力し、宇野港に「チヌ」を作ります。(アートユニット・淀川テクニク)



犬島

Inujima



維新派「呼吸機械」 Photo: FUKUNAGA, Kohji (Studio epoque)

岡山市の宝伝港から南に約2.5km、定期船で約8分の場所に位置しています。面積は約0.54km²、周囲3.6km。岡山市で唯一の有人島です。島全体を「建築・現代アート・環境」による新たな循環型社会モデルとすることを目指した「犬島アートプロジェクト」は、その第1期プロジェクト「精錬所」が2008年に4月に竣工しています。芸術祭では、第2期プロジェクトとして犬島「家プロジェクト」を予定。改修された家屋や透明なアクリルの建物、反射するアルミの建物の中に、柳幸典氏の作品が展示されます。また、維新派による、この犬島独自の空間と歴史を活かした演劇を上演。犬島を起点に、海の道を経てアジアの多島海へ連なるイメージを劇場化し、20世紀のアジアを多層的に検証します。地元岡山からは備前焼作家藤原和氏による野焼きイベントも準備中です。(柳幸典氏、妹島和代氏、長谷川裕子氏ほか)

なお、「精錬所」は4月から予約なしで入館できるようになりました。詳しくは「犬島アートプロジェクト」HPをご覧ください。
<http://www.inujima-ap.jp/>

大島

Oshima



高松港の北東約8kmに浮かぶ、面積0.62km²、周囲7.2kmの小さな島で、もともと2つの島だったものが砂州でつながり、ひとつの島になっています。ハンセン病の療養施設である国立療養所大島青松園が所在する白砂青松の美しい島です。大島では、住民と来島者とのかかわりの中で、美術を通して地域と人の豊かな環境を構築

するため、「やさしい美術プロジェクト」を展開。長期に渡るコミュニケーションを通じて心情を理解し、入居者の生活・歴史・記憶・感情をギャラリーで表現する展示を行います。また、実力派ミュージシャンたちによる「瀬戸内音楽団」のコンサートもお楽しみください。(やさしい芸術プロジェクト、瀬戸内ミンスレル〔仮称〕)

小豆島

Shodoshima



新岡山港からフェリーで70分、日生港から60分、人口は約32,000人で、瀬戸内海では淡路島に次いで2番目に大きな島(面積153.33km²)です。約100年前に日本で初めてオリーブ栽培に成功したことからオリーブの島としても知られています。芸術祭では、地域に伝承されてきた「祭り」や「農村歌舞伎」といった住民のアクティビテ

ィに焦点をあて、里山の良さが色濃い肥土山地区と中山地区を中心に農村歌舞伎の公演やインスタレーションが行われます。美しい棚田に現れる作品や風が奏でる演奏などをお楽しみください。(王文志氏、安岐理加氏、河口龍夫氏ほか/小豆島農村歌舞伎公演、「鳥の劇場」公演)

岡山県の教育の向上に貢献した個人や団体を顕彰する第24回福武哲彦教育賞、第10回谷口澄夫教育奨励賞の選考委員会が3月19日岡山市内のホテルで開かれ、厳正な審査の結果、教育賞に1個人1団体、教育奨励賞に1個人4団体が決定しました。贈賞式は、5月17日(月)岡山プラザホテルで行う予定です。

福武哲彦教育賞



山本力氏

岡山大学大学院教育学研究科 教授
(岡山市在住)

長年にわたり県内の不登校問題に取り組む、教育相談等を通じて、解決に尽力してこられました。今回岡山県教育委員会が平成12年に開設した、小・中・高校生を対象とする電話相談「子どもほっとライン」のスーパーバイザーとして事業に関わっています。特に、相談員となる学生ボランティアの養成講座では、資質向上や相談内容的確な対応を図るための指導助言を行うなど、コーディネート力が大きく評価されました。



岡山県立久世高等学校

(真庭市)

学校全体で「食と農」に関わる地域との交流・連携活動を継続的に実践しており、学校が所在する真庭市の食育推進に無くてはならない存在として大きな評価を受けています。学校内に留まらない活動は、生徒自身の視野や人間関係を広げ、コミュニケーション能力の向上にも繋がり、豊かな心を持った、地域で活躍する人材の育成に大きく寄与しているとして高く評価されました。

決

福武哲彦教育賞に山本力氏、岡山県立久世高等学校
谷口澄夫教育奨励賞に床勝信氏ら一個人四団体

定

谷口澄夫教育奨励賞

◆ 床勝信氏 (岡山市立灘崎中学校 主幹教諭/倉敷市在住)

平成18年から3年間、学力・人間力育成推進会議のIFプラン実践モデル地域である灘崎中学校区の中心的役割を担い、着実に成果を挙げました。終了後もその成果を積極的に全国へ発信し、各地の研究会でも講師、助言者として参加するほか、後進の指導にも尽力されており、今後の活躍が大いに期待されています。

◆ 岡山県立岡山工業高等学校 (岡山市)

設置される全7科がそれぞれの専門性を活かし、一体となって地域との連携に取り組んでいます。また全国の高等学校初となる半導体の製作を行い、県内の情報系学科の高校生を対象に講習会を行うなど外へ向けた積極的な活動は、専門性の深化と同時に社会に貢献できる実践的な人材の育成にも繋がることとして評価されました。

◆ 「川柳でつなぐ地域と学校」推進協議会 (久米南町)

川柳の町として知られる久米南町では川柳を学校教育に取り入れ、川柳を通じて地域と家庭、学校が一体となって子どもたちの教育に当たるユニークな取り組みが成果を挙げています。取り組みを始めて3年が経過し、地域と保護者、学校との連携が深まってきており、今後の活動に期待が寄せられています。

◆ 美作市立美作中学校吹奏楽部 (美作市)

平成18年からの5年間、中国大会、全国大会において素晴らしい成果を挙げる一方、地域で行われる各種行事へ積極的に参加し、地域活性化に大きく貢献しています。特に昨年夏には美作地域が大水害を受ける中、全国大会へ2回出場し、いずれも賞を獲得するといった明るいニュースをもたらし、市民に夢と感動を与えたことが高く評価されました。今後ますますの活躍が期待されます。

◆ NPO法人 子ども達の環境を考える「ひこうせん」(備前市)

平成13年から乳幼児や小学生、中高生、さらに保護者を対象とした子育て支援事業に取り組んでいます。平成17、18年度には文科省の指定事業を受託するなど、先進的な事業にも取り組み、活動範囲を広げ、他団体との連携やネットワークの構築にも尽力されてきました。県内の子育て支援における貢献は顕著で、今後の活動にも大きな期待が寄せられています。

創設以来の受賞者は、福武哲彦教育賞61件(27氏、34団体)、谷口澄夫教育奨励賞43件(27氏、16団体)となりました。

七月開催の「瀬戸内国際芸術祭」を前に、同祭の総合ディレクター北川フラム氏を迎え、三月十七日、さん太ホールで「海の復権」が開催されました。北川フラム氏は、昨年四回目を迎えた「大地の芸術祭」越後妻有アートトリエンナーレ」を紹介し、「芸術祭は、作品展示の展覧会ではなく、アーティストによって創られた地域の宝物をみんなで楽しむお祭り。地元のお年寄りを訪れた若者がアートを介して一緒に楽しむ。妻有のお年寄りは元気になりましたよ」と報告されました。続いて、瀬戸内国際芸術祭で展開されるアートやイベントを説明しながら、「島に流れる時間、島々の文化など瀬戸内海の魅力を世界へ発信し、世界がつながるきっかけをつくりたい。瀬戸内海を地球と人類の希望の海にした」と芸術祭への想いを熱く語られました。



平成22年度教育研究助成対象者が決定しました！

教育研究助成審査委員会を去る2月26日市内ホテルで開催し、厳正な審査の結果、平成22年度の助成対象者が決定しました。贈呈式および教育研究発表会は7月に開催する予定です。

助成件数：56件（応募件数111件）
助成総額：1,200万円
助成期間：平成22年4月1日～平成23年3月31日

平成22年度文化活動助成対象者が決定しました！

文化活動助成審査委員会を去る3月8日市内ホテルで開催し、厳正な審査の結果、平成22年度の助成対象者が決定しました。また、昨年度から継続特別枠を設け、県内文化団体の効率的な質的向上を目指しています。贈呈式および文化発表会・交流会は9月上旬に開催する予定です。

助成件数：90件（応募件数164件）
助成総額：1,620万円
助成期間：平成22年4月1日～平成23年3月31日

※継続特別枠
助成件数：11件
助成総額：320万円
助成期間：平成22年4月1日～平成23年3月31日

平成22年度事業計画

平成21年度第2回理事会・評議員会を去る3月26日に開催し、平成22年度の事業計画および予算が決定しました。概要は以下のとおりです。

表彰事業

福武哲彦教育賞および谷口澄夫教育奨励賞の贈賞、福武文化賞および福武文化奨励賞の贈賞、福武教育文化叢書の発刊

教育文化に関する助成事業

- 教育関連助成事業
教育研究助成（公募）、研究大会助成（公募）、学力・人間力育成推進事業助成、個性的教育を推進する地区・校への助成（公募）、学力向上のための活動助成、特定教育助成、英語研修助成、その他の助成
- 文化関連助成事業
文化活動助成（公募）、特定文化助成、指定文化財保全助成、瀬戸内文化育成助成、その他の助成

国際的人材育成事業

海外教育研修事業、日中青年交流事業への助成

アートによる瀬戸内地域振興事業

- 瀬戸内国際芸術祭関連事業
瀬戸内国際芸術祭推進事業、犬島演劇祭事業、シンポジウム開催事業
- 25周年記念事業

その他の公益事業

広報事業、調査研究事業

* 詳しくは当財団のホームページをご覧ください。
ホームページアドレス <http://www.fukutake.or.jp/ec/index.html>

美咲中央小学校における「I Fプラン」
3年間の取組の成果と課題

2 成果と課題

3年間を振り返って、成果としては児童に、学習意欲の向上、基礎学力の向上、学習スキルの向上、家庭学習に対する意識の向上、地域の人たちとの関わりが増加などが見られました。また、教師の変容では、先進校視察や授業研究等により指導技術の向上が見られ、「美咲っ子の学習」「ノートを使い方」「話す・聞く系統表」「COMPASS検討会」等の活用により、職員間の共通理解・系統的指導などができてきました。

課題では、自分の考えを論理的に説明できる「説明力」「コミュニケーション能力」の育成や、効果的な説明をしたり、理解深化課題の内容を考えたり、精選をしたりするなど、「教えて考えさせる授業」のより一層取り組まなければならない研究課題が出てきました。

3 今後の取組について

本校の3年間の研究は、教職員・保護者・地域社会に、様々な教育問題についての話題を投げかけるものでもあったように思います。学校からは、保護者や地域に情報提供や問題提起をさせていただき、逆に、保護者や地域の方からは支援、協力や理解をいただきながら、地域と連携した教育活動ができてきました。

この研究を、さらに次元の高いものにするためにも、また、開校5年目を迎えて新たな伝統を作るためにも、全教職員が同じ教育目標のもとに、さらに研究を深めていきたいと考えています。



学力・人間力育成推進会議は、自治体・学校・地域・企業等が一体となって、人間力の育成とその基礎となる学力の向上を目指して、岡山県におけるこれからの教育を作っていくための研究組織です。推進会議は、東京大学大学院市川伸一教授を指導顧問に迎え、「もしこのような教育ができたなら」という新しい教育の在り方（I Fプラン）を追求していくことを活動の中心としています。

今回、モデル地域としての研究が平成22年3月に終了した久米郡美咲町立美咲中央小学校 佐々木勇校長に子どもたちがどのように変化してきたのか、また何が課題となったのかをまとめていただきました。

1 研究の概要

本校は、平成19年度より3年間、「心豊かでたくましく、ともに学び合う子どもの育成」を教育目標に、学校力・教師力・授業力の向上により、人間力の育成を目指すため、「学ぶ意欲と学習スキルを育て、学力の向上を図る～『教えて考えさせる授業』の実践研究～」をテーマに取り組んできました。

研究の方法としては、人間力の育成とその基礎となる学力の向上を目指し、「もし、このような教育ができたなら（I Fプラン）」という、新しい教育の在り方を追究しました。

そして、校内に関係教育機関・地域住民・保護者から構成した委員会を結成し、学校だけでなく各方面からの支援や協力も得ながら、研究を進めてきました。

「猫だまり」 青地大輔



瀬戸内の海にはたくさんの島がある。
そこは、穏やかな気候とのどかな景観にかこまれ、ゆ
っくりとした時間が流れている。
そんな瀬戸内のどの島でも目につくのが猫の姿だ。
人の姿を見つけニャーニャー鳴いてすり寄ってくる猫、
空き地の真ん中にぼつんという猫、物陰や屋根の上か
らじっとこちらを見つめる猫。どの島でも猫は自由
にのびのびと暮らしている。
瀬戸内国際芸術祭の会場になる男木島もその例外では
ない。
夕方になるととことなくとある家の玄関先に集まって
くる猫達。
1匹、2匹・・・10匹・・・島中の猫が集まって
きているように思える。
猫が集まる場所を「猫だまり」という。それは猫たちに
とって暖かくとても居心地の良い場所なのだろう。
この夏、島は多くの人で賑わうだろう。訪れた人々の集いの場が、至る場所にできるの
ではないだろうか。
私は、その集う様子を「猫だまり」と重ねてしまう。
島×人×猫=心地よさ
島の景観とアートに魅せられた人の集まり、猫だまりに共通していえることは、きっと
〈心地よさ〉なのだと思う。
アートとともに猫の背中の中線の曲線美に多くの来島者が魅了されるのはまちがないだろう。

Editor's comments

春は別れと出会いの季節です。皆様にはどのような別れと出会いがありましたか？
財団では、2年間親しんだ『不易』に別れを告げ、リニューアルした『不易』が誕生しま
しました。ページ数は10ページから8ページになりましたが、紙面を大きくし、視覚的に読み
やすく、解りやすい『不易』に生まれ変わりました。

今号では、第24回福武哲彦教育賞と第10回谷口澄夫教育奨励賞を受賞された方々の紹
介と、前号から引き続き瀬戸内国際芸術祭の舞台となる島々を特集したほか、学力・人
間力の地区校として3年間の取り組みを終えた美咲中央小学校の報告を中心に掲載いたし
ました。また表紙の写真は、「島の日常とアートの関係性」をテーマに1年間お届けする
予定です。今回は、岡山市在住の写真家・青地大輔さんに、男木島の日常の風景を提供し
ていただきました。

視覚的にリニューアルした『不易』ですが、今までと同様、取材・編集には全ての職員
がかかわり、教育、文化を通してより良い地域づくりに取り組む人々を支援していきたい
と思っております。（財団・W）

季刊

不易

F U E K I vol.38 2010.4.25

編集・発行：

財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17
株式会社ベネッセコーポレーション本社3F

TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190
URL <http://www.fukutake.or.jp/>
E-mail eczaidan@fukutake.or.jp

制作：
株式会社 吉備人
デザイン：
田中雄一郎(QUA DESIGN style)
印刷：
広和印刷株式会社



人づくり、地域づくりを応援します

財団法人 福武教育文化振興財団